行動計量学会報

日本行動計量学会事務局
106 東京都港区南麻布４－６－７
統計数理研究所　村上研究室

社会調査データの活用

佐々木 正道

社会科学に関連する国内外の学会をコーディネートする機会を得たり，また実際に出席して感じることは，日本の研究者による社会科学の「実証的」研究発表の数とその内容が，先進諸国に比べ見劣りすることである。このことは，日本とアメリカの大学院のトレーニングを対照させると，容易に理解できる。なぜなら，特にアメリカにおいては社会科学を志す者にとって大学院において実証的かつ統計的研究方法を習得することが必須であるのに対し，日本の大学院での訓練は必ずしも十分とは言えない。また日本では「 理論家 」と，いわゆる「 調査屋 」が乖離し，理論についての検証や理論構築のために調査データが十分に活用されていないといった傾向がある。とはいっても，最近は日本においても分野によって程度が異なるものの，社会科学の論文では，それを作成する側も審査する側も，経験に裏打ちされた調査技術や統計的手法の知識を要求する傾向が更に強まりつつある。

近い将来を見通し，日本の社会科学の実証的研究で今望まれていることを考えて見る。第1は，予算に恵まれなかった多くの研究者にも既存の調査データが提供され，その二次的分析が可能となること。この点について，日本では個人や団体の収集した個票データの利用が，残念ながら現時点では容易ではない。しかしアメリカでは，公的助成を受けた調査データは一定の期間を過ぎると必ず利用可能なものにしなければならないという制度がある。日本においてもこういったことが今後必要になると思う。第2は，このようなことが実現できれば，研究者は誰でもがデータを活用することで，多角的かつ総合的に社会現象とその変化を知ることが可能となる。これにより第3として，調査データの質を比較評価できるようになる。これらの点については，日本においてもようやく大学・研究機関をはじめその研究内容を「評価」する時代となり，特に外的な評価が強調されるようになってきた。このことはデータの質についても言え，データの信憑性が特に要となる。この分野では，アメリカのシカゴにあるNORC(National Opinion Research Center)が定期的にデータの引用リストを公表し，データの質的評価の資料を提供している。これにより，データを収集そして提供した研究者(チーム)の質が評価されることになる。しかも，一つのデータがどのように活用されたかまでも明らかとなり，データの有効利用に結びつくことになる。第4は，先進の欧米における試行錯誤の経験から，調査データの収集とその活用をリードするには，既存の大学ではなく独立した機関の形態をとることが望ましい。なぜならば，大学では研究の継続性や財政面から見て困難であるからである。第5として，国際化・情報化時代においては，世界的に研究者間で国際比較研究が行われ，相手国の政治・経済・社会・文化等の調査データを相互交換することが必要となる。しかし現状では，日本の情報を提供するための十分な法的及び倫理的な事柄を検討する体制が未だ整備されていない。これは日本の研究成果の価値評価，ひいては研究者の信用問題にも及び，今後の国際共同研究の在り方の上で大きな支障になろう。これら諸々の問題点を克服するためには，我々の学会も一致協力して国際協調の視点に立ち，21世紀に向けて更なる期待を担える日本の展望を開くことに，尽力することが望まれる。

（ささき まさみち，兵庫教育大学教授）

本学会名誉会員京極純一氏が学士院会員へ

林知己夫（行動計量学会初代理事長）

京極さんが学士院会員になられましたことを会員とともに心からお慶び申し上げます。

京極さんは行動計量学会発足の当初から，その設立運営に多大な尽力をされ，現在本学会の名誉会員となられている。これは，世俗部分のことで，その学問的業績は行動計量学の部面に限っても目をみはるものがある。透徹した着眼点，炯眼射るような分析解釈の視点，数量分析の深さ，鋭さ，豊富な学識にはぐくまれた知の豊かさなど，私はいつも敬服しているのである。今後，益々ご活躍されることを望んでやまない。京極さんのことは周知のことで，いまさらご紹介するまでもないが，会員の若い方や専門の全く異なる方も多くなっていると思われるので簡単に「私の目から見た京極さん」を書いておこう。

計量政治学の全くの草分けで，この学問領域に新鮮にして実りある成果を斎したのである。昭和３２年頃から政治意識の共同研究が始まった。京極純一，池内一，水原泰介，牧田稔，斉藤定良，私，下の年齢層では加留部清，後になって茅野修というメンバーが主なものであったと記憶している。肝胆相照らす仲の良いグループであったが，学問の議論は激しいものであった。池内君は演繹的にしてかつ実証を重んじたタイプの人で，彼のすっきりした理論体系からデータを見ようとするのでなかなか難しい——因みに彼の質問文は芸術作品であり逸品であった——。私は徹底的に経験主義（池内君によればヒュームの流れにあるという），帰納的なので，データに基づく発想中心で，打打発止という遣り合いで京極さんは中間的立場であったと思う。楽しい研究会で，その成果は，統数研の彙報や日本の政治感覚（出光書店，日本人研究６）にまとめられている。私は，京極，池内両氏に政治意識について教えられ，アイディアの芽を多く得たことは忘れられない。

著書も多く頂いた。今の若い人たちに読んで，その方法論，格調の高さ，視野の広さ深さ，それが如何に形成されて行ったかについて学んで欲しと思っている。今手元にあるものは，政治意識の分析（東大出版会，１９６８），現代民主制と政治学（岩波書店，１９８３），日本の政治（東大出版会，１９８３），日本人と政治（東大出版会，１９８６）。その他特筆すべきものに，統数研彙報に発表された数量化３類に関する統計理論の論文がある。京極さんをよく存じ上げていない人には余技と見られるかもしれないが，内的関連性のある興味深い本がある。植村正久—その人と思想（新教出版社，１９６６），文明の作法—ことわざ心景（中公新書，１９７０）。

今年度学会賞受賞者のことば

前号でお知らせしましたが，今年度の日本行動計量学会の学会賞授与者は，功績賞が村上征勝会員，優秀賞が足立浩平，狩野裕両会員に授与されました。なお，前号で「貢献賞が功績征勝会員」となっていました(3ページ右8行目)が，「功績賞が村上征勝会員」の誤りです。誤植がありましたこと，お詫び申し上げます。

功績賞を受賞して

統計数理研究所　村上征勝

今回の賞たいへん光栄に思っております。十数年間，文章の統計分析を中心に人文科学の分野での実証的研究を行なって参りました。このことが受賞理由の一つとなっていますが，このような研究者のまだ少ない領域の研究に光を当てて下さった事に感謝しております。「このようなのは，研究とはいえない」というような非難を浴びながら研究を行なっておりました時に，「おもしろそうだ，続けてみなさい」と励まして下さったのが林知己夫先生で，その林先生が創立された行動計量学会の功績賞をいただけたことで，先生にわずかながらでもご恩返しが出来たのではないかと思っております。また，これまでお世話になった学会

の皆様にも心よりお礼申し上げます。微力ですが，これからも行動計量学会のために努力致したいと思います。ありがとうございました。

優秀賞を受賞して

甲子園大学人間文化学部　足立浩平

本学会の優秀賞を受賞でき，感激いたしております。私のような浅学非才の者が受賞できるとは思いもよらぬことで，賞の名前を汚さぬように努力する所存です。

研究テーマとして，私は，多次元尺度構成に関することと判別分析の応用を平行して行ってきました。今は，前者の中でも(多次元)展開法の関連手法に興味を持っています。展開法は比較的知名度の低い手法ですが，「データ行列の行・列項目間の距離によってデータを記述する方法の総称」と広義に定義すれば，MDSや等質性分析(homogeneity analysis)に基づく数量化法などを包含する一般性の高い方法と位置づけることもできます。こうした尺度構成や数量化の分野の中でも，カテゴリカルな継時観測(longitudinal)データを対象とした方法などに興味を持ち始めています。

さて，私は心理学の出身ですが，最初から行動計量学を勉強したわけではありません(そもそも，行動計量や計量心理の名前を掲げる大学のコースは殆どありませんが)。本学会入会前後の頃は，仮説をたてて実験を行う実証研究をテーマを変えながらやっていましたが，こうした作業にはどうも不向きであると感じつつ，いつも，心理データ解析のモデルや手法を考える計量心理学に興味を持ってきました。そのうち，計量心理学を本格的に勉強しようと思い立って論文を読み出すと，「とにかく面白い」と感じ，現在に到った次第です。

今も「へたの横好き」で計量心理学に惹かれる私ですが，このたび受賞できたのは，直接および間接的に御指導いただいた学会の先輩方のお陰です。ここで間接的というのは，直接の交流がなくとも，著書や論文を通して勉強させていただいたことです。本学会の先輩方の書物により，日本の行動計量学の勉強環境は恵まれていると思います。こうした本学会の皆様方の御指導に感謝申し上げます。

優秀賞を受賞して

大阪大学人間科学部　狩野　裕

このたび日本行動計量学会の優秀賞を授与され大変光栄に存じます。

私が初めて行動計量学会の大会に参加させて頂いたのは10数年前の京都大会でした。酷暑であったにもかかわらず参加者が多く，私が覗いたセッション会場は満員で，少々遅れていった私たちは座る席がないほどでした。そこでは「重相関係数が 0.9 でも不十分である．．．」などという，熱のこもった議論が続けられていて，淡白な数学会などと比べて，その違いにびっくりさせられた記憶があります。帰り道，予稿集を見ながら，先輩の猪原正守氏(現 大阪電気通信大学教授)が因子分析の適用事例をみて，「みんな主因子法や。誰もMLつこうてへん(使っていない)」とおっしゃっていたのが，鮮明に記憶に残っています。

方法論者の第一の役割は，新しい方法論を開発し提供することです。同時に，上記のような疑問に説得力のある理由をつけて答えること，そして，分析方法が適切に利用されていくようガイダンスしていくこと，最近はこのようなことも重要だと考えるようになりました。そのためには，応用の研究者との交流が重要だと思います。私は，正直言って今までこの任務にあまり時間を割いてこなかったのですが，昨年から勤務させて頂いている人間科学部は，そのためにも最適な環境です。当学部では多くの学生やスタッフがデータと奮闘しています。方法論として，どのような解析方法があるのか，どこまで分かっていてどこからが未知なのか，何をやってはいけないのか，このような事を議論する機会を増やすべく努力をしています。研究会やセミナーを開き，方法論者と応用家とのインターフェイスが作れればと考えています。

数理統計学の畑に育った私といたしましては，今回の受賞は正直言って場違いではないかと感じています。が，それは行動計量学会への期待量と理解し，そ

の期待に応え行動計量学の教育・研究に少しでも貢献できるよう努力する所存です。今後ともみなさま方の相変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げ，受賞の言葉に替えさせて頂きます。

第26回日本行動計量学会大会

1) 大会の概要

1998年度の日本行動計量学会第２６回大会は，立教大学の担当により以下の要領で開催の予定です。

日時：平成10年9月16日（水）～18日（金）

場所：立教大学 〒171 東京都豊島区西池袋3-34

TEL:03-3985-2231(代表)(JR池袋駅より徒歩7分)

大会実行委員長　池田 央（立教大学社会学部）

同 副委員長　岡太彬訓（立教大学社会学部）

同 事務局長　山口和範（立教大学社会学部）

2) 大会の内容

本大会では，招待講演(Jacqueline J. Meulmanライデン大学)，シンポジウム，特別セッション，チュートリアルセッション及び一般研究発表を予定しております。シンポジウムとして「大震災を計量する」「電子調査法」，特別セッションでは，「社会ネットワーク分析」「インタネット上での統計分析」「産業，市場研究における構造分析モデルの展開」「心理教育データの共分散構造分析」「社会，環境調査と潜在変数モデル」「人間行動へのニューラルネットワークモデル適用の可能性を探る」など，様々なテーマのセッションを企画しております。

3) 第26回大会関連のホームページ開設

第26回大会関連のホームページを開設します。ここには，大会関連の情報掲示とともに，会員のかたがたからの大会についての質問などをお答えするコーナーを設けております。ホームページの内容は逐次改訂いたしております。会員のみなさまには，時折ご覧いただけると幸いです。URLは以下のとおりです。

http://www.ir.sr.rikkyo.ac.jp/bsj98/

なお，第26回大会に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

実行委員会事務局（連絡先）

立教大学社会学部産業関係学科内 日本行動計量学会・大会実行委員会事務局長 山口和範

Tel 03-3985-2325（山口研究室）

Fax 03-3985-2833 （立教大学社会学部）

*** 運営委員会から ***

＜第64回行動計量シンポジウム＞

（数理社会学会との共催）

社会ネットワーク研究の今日的課題

日時：1998年3月13日（金） 13:00-16:00

（受付開始時刻 12:30）

場所：甲南大学（岡本校地）1号館４階 141号講義室

主催：日本行動計量学会，数理社会学会

企画：井上 寛（九州工業大学工学部）

照会先：

日本行動計量学会 岡太彬訓(立教大学社会学部)

TEL. 03-3985-2319 FAX. 03-3985-2833

E-mail okada@rikkyo.ac.jp

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

数理社会学会 木村邦博（東北大学文学部）

TEL. 022-217-5967 FAX. 022-217-5972

E-mail kkimura@sal.tohoku.ac.jp

〒980-8576 仙台市青葉区川内

＜第65回行動計量シンポジウム＞

（日本認知科学会との共催予定）

感性研究の新動向

日時：1998（平成10）年6月6日（土）

場所：東京工業大学(大岡山キャンパス)西2号館

主催：日本行動計量学会，日本認知科学会（予定）

企画：徃住 彰文

照会先：

日本行動計量学会 岡太彬訓(立教大学社会学部)

TEL: 03-3985-2319 FAX: 03-3985-2833

e-mail: okada@rikkyo.ac.jp
〒171 東京都豊島区西池袋３－３４－１
日本認知科学会 往住彰文（東京工業大学社会理工学研究科）
TEL: 03-5734-2680 FAX: 03-3729-1229
e-mail: kansei98@valdes.titech.ac.jp
WWW:http://www.valdes.titech.ac.jp/~kansei98/
〒152 東京都目黒区大岡山2-12-1
東京工業大学社会理工学研究科価値システム専攻
感性シンポジウム98

＜春の合宿セミナーの案内（第２報）＞

日本行動計量学会では，先の会報でお知らせしましたように，気楽な雰囲気で，行動計量学の基礎を学ぶチュートリアルを中心とした合宿セミナーを企画致しました．数理的計量的に人間，社会，生物を把握しようとするアプローチは今後もさらに重要性が増すと思われますが，そのためには若干の統計的な知識が必要であり，その敷居の高さが，行動計量学に対する若い研究者の関心を鈍らせる結果になっているようです．このセミナーは，行動計量学へのやさしい招待を意図しているもので，若い学生と精神的に若い研究者のご参加をお待ちしています．ただし，既に１００名近くの参加申し込みがあり，コースによってはお断りする場合もあるかも知れません．以下に簡単なセミナーの概要を記しますが，いずれにしても，御関心がある方は，宿泊の可能性を含めて下記までお問い合わせ下さい．なお，日帰りで，どれか特定のコースのみ受講することもできます．

繁桝（kshige@bayes.c.u-tokyo.ac.jp）
大森（ohmori@bayes.c.u-tokyo.ac.jp）

記

日時：平成１０年 ３月２８， ２９， ３０日
場所：東京大学検見川セミナーハウス（総武線新検見川）
会費：２０００円（最初の案内では１０００円としておりましたが，費用の試算の結果，値上げせざるを得ません．）
宿泊費：実費

プログラム：
第１日（平成１０年３月２８日午後１時から５時）
全体講演
多変量解析とは何か
（柳井晴夫，大学入試センター）
パラメータの推定法の基本
（前川真一，大学入試センター）
複雑系入門 （岩崎学，成蹊大学）．

第２日（平成１０年３月２９日， 全日， 下記の３つの内一つの教育コースに参加します．）

1. コンピュータによる実験データの分析
岩崎 学（成蹊大学）
実験計画法は，工場実験，心理測定をはじめ広く科学研究の分野で利用されています。近年，実験データの分析だけでなく，実験計画そのものの作成にもコンピュータが利用されるようになってきました。本コースでは，種々の実験計画の作成法，ならびに得られたデータを解析するための統計的方法を，コンピュータによる実例を交えながら解説します。

2. テスト得点の統計解析
繁桝 算男（東京大学）
このコースは第６回ＩＲＴセミナーを兼ねており，以下のような内容です。まず，午前中にＩＲＴ理論の基礎と現代的展開について，やさしい講義があり，午後は，ＩＲＴの理論や実際についての最新の研究の発表があります。この発表も学会とは異なり，新しい部分だけではなく，その研究の基盤から説明してもらいますので，わかりやすいと思います。

3. 線形数学の基本概念とその多変量解析への応用
柳井晴夫（大学入試センター研究開発部）
ベクトル，行列の基本概念（行列のランク，逆行列，一般逆行列，射影行列）が多変量解析の各種技法の原理とどのように関係しているかについて解説します。

第３日（平成１０年３月３０日，下記の内どれか一つに参加します）

1. 多次元尺度構成法の基礎と応用

岡太 彬訓（立教大学）

このコースでは，多次元尺度構成法（Multi Dimensional Scaling: MDS）の考え方，モデル構成，データ，アルゴリズム，応用などをとりあげる予定です。

特に，データと応用に時間を割き，できればＭＤＳの利用について新たな展望を開きたいと思っています。ＭＤＳに関する予備知識を前提にしているわけではなく，ＭＤＳは全く初めてというところから始める予定です。また，セミナーを一方通行でなく双方向のスタイルにしたいと思いますので，参加される方も，ＭＤＳで分析すると面白いのではないかとお考えのデータなどをご持参頂くのも歓迎です。

2. 因子分析と共分散構造分析

狩野　裕(大阪大学)

「因子分析というと探索的因子分析を指し（反復）主因子法で解く」という常識はいまや常識ではありません。本コースでは，まず（i）因子分析の考え方とその基礎を解説し，（ii）最尤法による探索的因子分析，そして（iii）共分散構造分析の重要なパーツである検証的（確認的）因子分析へと進みます。（iv）共分散構造分析の考え方と基本的事項を整理し，最後に（v）ソフトウェアのデモを行なう予定です。

3. 測定論の基礎

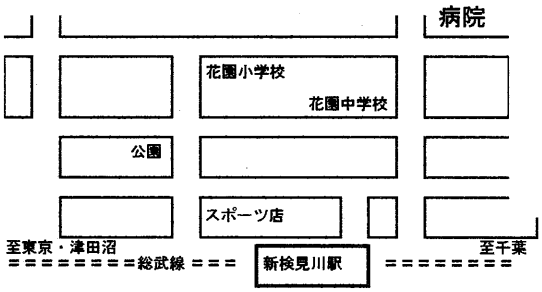
吉野 諒三(統計数理研究所)

測定理論「基礎編」では，森周司先生が「精神物理学の統一理論」，吉野諒三先生が「公理的測定理論」を解説いたします。いずれも「心理学評論」にかつて発表された論文を基に簡明に，しかし深くお話し，最近の理論的発展や関連するトピックにも触れます。さらに，何人かの講師が，専門的なトピックについて講演します.

会場案内

〒262-0021　千葉市花見川区花園町1035
東京大学検見川総合運動場 検見川セミナーハウス
Tel.043-273-8669,8071　Fax.043-273-6608
総武線(お茶の水駅より５０分)で新検見川駅下車，西口より徒歩１３分
(駐車場はないためお車でのご来場は御遠慮下さい。)

★ セミナーハウス★



その他，ご質問等ございましたら，繁桝または大森までお願い致します。

TEL:03-5454-6114　FAX:03-3485-0481
e-mail:ohmori@baeys.c.u-tokyo.ac.jp

＜小グループ研究会募集＞

日本行動計量学会では，研究活動の活性化をはかるため，毎年数件の小グループ研究会に対して資金的援助を行っています。平成10年度の小グループ研究会の募集を下記の要領で行います。

昨年度からの継続，本年度からの新規，どちらでも結構です。奮ってご応募下さい。なお審査結果は，5月中旬にお知らせする予定です。

提出書類：研究会名，代表者，参加予定人数，簡単な内容(50字～100字程度)，活動予定を記載したもの（既定の様式はありませんがA4版用紙を使用して下さい）。
応募期限：平成10年4月25日（土）必着
郵送先：〒171 東京都豊島区西池袋3丁目
立教大学社会学部
日本行動計量学会運営委員会委員長
岡太 彬訓

お問い合わせ，岡太(Tel.03-3985-2319)までお願いします。

平成９年度第５回理事会議事録(案)

日　　時：平成９年11月17日　PM6:00～8:00
場　　所：大学入試センター
出 席 者：池田 央，市川雅教，岩崎 学，江川 清，岡太彬訓，繁桝算男，高木廣文，田栗正章，村上征勝，柳井晴夫，山岡和枝，吉村 功

議　題

１．第26回大会について

池田理事より第26回大会について以下のような報告があった。

・公開講演会を前日に開催する予定
・総会は中日に開催する予定
・特別セッションのアイデアを募集中
・特別セッションorシンポジウムとして，“ニュートラルネットワークの学際的な可能性”，“市場調査における構造方程式モデルの展開”を計画中
・本年度だけでも大会用のホームページを設けたいと考えており，運営委員会に検討を依頼した。

２．学会賞選考委員会委員長の選出

柳井理事長より来年度の学会賞選考委員会委員長として吉村功理事を推薦したい旨提案があり了承された。なお，学会賞選考委員の選出は委員長に一任し，選出結果を理事会に報告してもらうこととした。

３．各種委員会報告

・岡太編集委員より10月29日開催の和文誌編集委員会での議論の内容及び編集状況について報告があった。
・繁桝欧文誌編集委員長よりVol.24 No.2, Vol.25 No.1の編集状況について報告があった。また次年度のspecial issueとして"Analysis of Knowledge Representations in Neural Network Models"（guest editor 高根会員）を予定している旨の報告があった。
・岡太運営委員会委員長より以下のような報告があった。
・６月に講習会“多変量グラフィカル解析”を計画中
・９月15日にチュートリアルセミナーを計画中
・３月末に合宿セミナーを計画中
・行動計量学会シンポジウムとして，５月または６月に「感性研究の新動向」を，3月にネットワーク分析関係のものを計画しており，前者は日本認知科学会との共催，後者は数理社会学会との共催をしたい旨の提案があり承認された。
・学会のホームページの作成を検討している。
・データアーカイブ連絡会へは北大の大津起夫会員が出席する。
・パソコン等を使用したデータ解析法の講習等を開催するためのガイドライン(案)の提案があり，再度委員会で検討し，次回理事会へ提案してもらうこととなった。
・田栗会則検討委員会委員長より，学会役員の任期，多選（連続３選または４選）禁止，名誉会員に関する規定，学会賞等その他の規定・申し合わせについての検討状況について報告があり，理事会でもこれらについて意見を交換した。

４．その他

・吉村理事より学術会議の報告があった。
・岡太理事を和文誌編集委員として追加承認した。
・大会抄録集の英文名は"Proceedings of the 24th Annual Meeting of the Behaviormetric Society of Japan"とする。

和文誌編集委員会より

<u>行動計量学会誌への著書紹介依頼</u>

学会員が執筆された著書は，その書評を学会誌に掲載して積極的に紹介したいと思います。ご自分の著書，または，他の会員が出版された書物でお気付きの図書がありましたら，ご一報ください。

和文誌「行動計量学」編集委員長
久保武士（筑波大学臨床医学系）
〒305 茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL&FAX: 0298-53-3071
e-mail: sigemitu@md.tsukuba.ac.jp

行動計量学のためのインターネット (3)

—インターネットを利用した文献検索①

立教大学社会学部 安田 雪

インターネットを利用した情報検索は，研究・執筆に不可欠になりつつある。今回は文献検索を行うためのデータベースについて紹介しよう。

学術情報の検索システムの筆頭は，学術情報センター(NACSIS)のデータベースだ。NACSISの検索システムは，図書及び学術雑誌の書誌情報をWWWを利用して検索するものと，センターが管理するデータベースシステムから書誌情報他の多様な情報を検索するものとの2種類のシステムがある。図書及び学術雑誌の書誌情報を検索するためには，http://webcat.nacsis.ac.jp/ にアクセスする。タイトル・著者名・出版者・題・ISDN番号などの項目のいずれかから，文献を検索することができる。著者名で検索をかけると，データベースに存在する該当著者の著書一覧が入手できる。それぞれの著書については，書誌情報及び所蔵データが表示されるので，学術情報センターが提携している全国の大学や研究機関のうち，その図書を蔵書している機関の一覧及び各機関の図書整理番号を知ることができる。たとえば，自分の著書が全国のどこの図書館に所蔵されているのかを知るといった使い方も可能だ。「行動計量学」を検索してみると，愛知学院大学から立命館大学まで85個所の図書館が所蔵していることがわかる。このシステムは，インターネットにアクセスすれば，誰でも無料で使える。

学術情報センターは，もうひとつNACSIS-IRと呼ばれる有料のデータベース検索サービスも提供している。データベースの種類一覧とその概要は，

http://www.nacsis.ac.jp/ir/dblist-j.html

から参照できる。学位論文データベース（全分野17万件），学会発表データベース（全分野31万件），科学研究費採択課題データベース（全分野6万件），科学研究費補助金研究成果概要（全分野20万件），研究者ディレクトリ（全分野14万件），学術関係会議等開催情報（日本学術会議編2万件）などをはじめ，個別学会や研究組織からの情報提供により，臨床症例データベース（医学1万件），経済学文献索引データベース（15万件），現行法令データベース（4千件）Social Sciences Citation Index（200万件）Science Citation Index Expanded（1100万件）など，現在国内外57のデータベースを提供している。

課金システムは，(A)接続時間毎分50円+ヒット料（書誌情報・抄録を端末出力するごとに）13円が課金されるものと，(B)各データベースの呼び出し1回毎に30円のものと2種類ある。各データベースは，いずれかの課金システムをとる。前節で紹介したデータベースのうち，アンダーラインのものは(A)方式，その他は(B)方式である。このNACSIS-IRのデータベースを利用するためには，学術情報センターに利用申請をしなければならない。国内の研究者及び大学院生は申請すればまず問題なく利用が認められるが，大学学部生及び海外の研究者，民間企業や一般の人々は原則として利用資格がなく，申請手続きが困難を極める。情報価値の高いデータベースだけに残念である。

大学図書館の多くも蔵書情報を公開している。たとえば東京大学の図書館総合目録データベースを利用してみよう。この場合，東京大学図書館のOPACシステムにtelnetで接続する。telnetは，ブラウザーかDOS窓から起動できる。ブラウザーの場合はURLを指定する場所に

telnet://opac.cc.u-tokyo.ac.jp

と指定してやると，東大のOPACシステムにつながる。ユーザー認証にはLIBRARYと入力，パスワードは不要である。これで誰でも無料で東大の蔵書の書誌情報がとれる。OPACシステムを採用している大学図書館は多いが，他大学のOPACシステムよりも安定度・入力済蔵書数・接続速度の点から，東京大学のOPACはお勧めできる。

関連学会等カレンダー

＜学会大会等＞

☆第25回数理社会学会大会
会期： 1998年3月14日(土)～15日(日)
会場： 関西学院大学　総合政策学部
照会先： 長谷川計二（大会副委員長）
〒669-1337　兵庫県三田市学園2丁目1番地
関西大学総合政策学部
TEL: 0795-65-7600　FAX 0795-65-7605
E-mail : z96013@ksc.kwansei.ac.jp
数理社会学会ホームページ :
http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jams/index.html
※前日(3月13日) 甲南大学（神戸市）において，日本行動計量学会・数理社会学会共済シンポジウムが開催されます。

☆ Tsukuba International Conference on Memory（TIC98筑波国際記憶会議）&The Second Japanese Conference on Memory（第2回JCOM）
会期： 1998年3月16日(月)～18日(水)
会場： 筑波大学 国際会議室
照会先： TIC98事務局
〒305 つくば市天王台1-1-1 筑波大学心理学系内
Fax: 0298-53-6713（TIC98事務局宛と明記）
e-mail: tic98@human.tsukuba.ac.jp
http://www.human.tsukuba.ac.jp/tic98

☆情報処理学会第56回全国大会
会期：1998年3月17日(火)～19日(木)
会場：中央大学理工学部（東京都中央区春日）
照会先：情報処理学会事務局
Tel: 03-5484-3535, Fax: 03-5484-3534
http://www.ipsj.or.jp/

☆言語処理学会第4回年次大会(NLP-98)
会期： 1998年3月24日(火)～26日(木)：本会議
3月23日(月)：チュートリアル
3月27日(金)併設ワークショップ
「テキスト要約の現状と将来」
会場：九州大学工学部(福岡市東区箱崎)　（ワークショップ会場は 休暇村 志賀島）
照会先：学会センター関西内　言語処理学会年次大会係
〒565 豊中市新千里東町1-4-2　千里LCビル14F
fax: 06-873-2300
email: o-socie@bcasj.or.jp

☆日本発達心理学会第9回大会
会期：1998年3月26日(木)～28日(土)
会場：日本女子大学 目白キャンパス
〒112 東京都文京区目白台2－8－1
照会先:〒214 神奈川県川崎市多摩区西生田1-1-1
日本女子大学人間社会学部内日本発達心理学会第9回大会準備委員会
Tel: 044-952-6890　Fax: 044-952-6909
e-mail jsdp9-req@ikuta.jwu.ac.jp
http://www.ikuta.jwu.ac.jp/jsdp/jsdp1.html

☆1998 年度応用統計学会・日本計量生物学会合同年次大会
会期：1998年5月12日(火)，13 日(水)
会場：中央大学駿河台記念館
(JR「御茶ノ水」駅下車徒歩5分)
特別セッション：
テーマ 1「生物統計家の教育と研修」
テーマ 2「応用統計学の教育の現状と今後の取り組み」
パネルディスカッション
照会先：応用統計学会事務局
〒107-0062 東京都港区南青山 6-3-9 大和ビル
(財) 統計情報研究開発センター内
TEL&FAX 03-5467-0484
(事務取扱：火曜，金曜 10:00 ～ 15:00)
計量生物学会事務局：
〒106-8569 東京都港区南麻布4-6-7
統計数理研究所　駒澤研究室内
FAX: 03-5421-8796
http://sunyht2.ism.ac.jp/SYMPO/StatConf.html

☆第12回日本計算機統計学会大会
会期：1998年5月14日(木)～15日(金)
会場：（株）日立製作所　公共情報事業部
東京都江東区新砂1-6-27　新砂プラザ
照会先：第12回日本計算機統計学会大会事務局
〒136-8632　東京都江東区新砂1-6-27
新砂プラザ（株）日立製作所　公共情報営業本部
学術情報営業部　荻山得哉／阿部光志／宮武則子
Tel: 03-5632-7619 Fax: 03-5632-7598
E-mail: jscs@jkk.hitachi.co.jp
特別講演：次の二件の特別講演を予定
赤池弘次（元統計数理研究所所長）
藤井孝蔵（宇宙科学研究所宇宙輸送研究系高速流体力学部門教授）

＜研究会，シンポジウム等＞
☆第9回データ工学ワークショップ(DEWS'98)
主催：電子情報通信学会データ工学研究専門委員会

会期：1998年3月5日(木)～7日(土)
会場：水上温泉 松の井ホテル
照会先：DEWS'98 ホームページ
URL:http://www.dbms.cs.gunma-u.ac.jp/DEWS/
URL: http://www.ieice.or.jp/

☆第25回知能システムシンポジウム
主催：計測自動制御学会
企画：知能工学部会
期日：1998年3月19日(木)，20日(金)
会場：東京工業大学長津田キャンパス総合研究館〔横浜市緑区長津田町4259〕
照会先：東京工業大学 大学院 総合理工学研究科
山村雅幸
〒226 横浜市緑区長津田町4259
Tel: 045-924-5212, Fax 045-924-5208
E-mail: my@dis.titech.ac.jp

☆情報処理学会フロンティア領域ジョイント研究会(FJK'98)
会期：1998年5月27日(水)午後～29日(金)午後
会場：・総合研究大学院大学（神奈川県三浦郡）・生産性国際交流センター（神奈川県三浦郡）
＊上記2会場は隣接してます。
照会先：情報処理学会事務局
Tel: 03-5484-3535, Fax: 03-5484-3534
http://www.ipsj.or.jp/
http://www.brl.ntt.co.jp/people/hirata/fjk98_cfp.html

☆第14回ファジィシステムシンポジウム－人間への回帰　ソフトサイエンスの新展開－
主催：日本ファジィ学会(SOFT:Japan Society for Fuzzy Theory and Systems)
協賛(予定)：日本行動計量学会他
会期：1998年6月3日（水）～ 6月5日（金）
会場：長良川国際会議場(岐阜市長良福光2695-2)
Tel:058-296-1200, Fax:058-296-1210
照会先：以下のURLで，シンポジウム情報を随時提供
http://www.bioele.nuee.nagoya-u.ac.jp/Soft-Tokai/FSS14/
http://www.nisri.moriyama.nagoya.jp/Soft-Tokai/FSS14/
実行委員長：磯本征雄（名古屋市立大学自然科学研究教育センター） 〒467 名古屋市瑞穂区瑞穂町山の畑1
Tel:052-872-5790 , Fax:052-872-5781
E-mail: yisomoto@cc.nagoya-cu.ac.jp

<チュートリアル類>
☆日本ソフトウェア科学会チュートリアル
「遺伝的アルゴリズムの理論と実際」--より困難な問題にブレークスルーをもたらす基礎技術 --
日時： 1998年3月16日（月） 10:00 ～ 17:00
会場：東京工業大学百年記念館 フェライト会議室
東急目蒲線，もしくは東急大井町線大岡山駅すぐ
参加費：（テキスト代含む）

	一 般	学 生
会 員	10,000 円	2,000 円
非会員	25,000 円	4,000 円

照会先：日本ソフトウェア科学会事務局
(TEL 03-5802-2060, FAX 03-5802-3007)まで FAXで問い合わせ。電話の場合平日，13:00-17:00
空席状況：http://www.jssst.or.jp/jssst/ に掲示

公募情報

以下の公募は，応募期限の早い順に並んでいます。研究者等の公募情報については，文部省学術情報センターの「研究者公募情報提供事業」(NACSIS-CIS)の下記WEBページも参照して下さい。
URL： http://nacwww.nacsis.ac.jp/index.htm
ただし，以下には，同ページに含まれない情報が掲載されている場合もあります。

☆筑波技術短期大学情報処理学科
1. 職名：教授または助教授
2. 分野：経営情報もしくは情報システム
3. 担当科目：コンピュータの応用面，特に経営情報システムを中心とした教科
4. 応募締切：平成10年3月15日
ただし，適任者が決まり次第締め切ることがある
5. 照会先：〒３０５ 茨城県つくば市春日４－１２－７
筑波技術短期大学情報処理学科 髙橋寛子
Tel 0298-58-9573
E-mail takahasi@cs.k.tsukuba-tech.ac.jp

☆弘前大学人文学部
1. 担当科目 情報経営（オペレーションズ・リサーチや数理計画法等の分野を専門とする研究者）
2. 所属講座 情報行動講座
3. 職名及び採用人員 教授又は助教授 1名
4. 採用予定年月日 平成10年10月1日または平成11年4月1日
5. 応募期限：平成10年3月31日（必着）
6. 照会先：〒036-8224 青森県弘前市文京町1番地

弘前大学人文学部　教授　清水　明
電話　0172-39-3204（ダイヤルイン）
E-mail：shimizua@cc.hirosaki-u.ac.jp
公募内容の詳細については，下記を参照のこと
http://nacwww.nacsis.ac.jp/cis/0008-015.html

☆岡山大学理学部数学科
1. 職名・人員：助教授1名
2. 所属講座：解析・汎用数理科学大講座
3. 専門分野：汎用数理科学（特に分野は限定しないが，確率論，微分方程式，数理物理学などの分野に関心がある方が望ましい）
4. 採用予定日：平成10年10月1日
5. 応募期限：平成10年3月31日
6. 照会先：岡山大学理学部数学科長　三村　護
〒700　岡山市津島中3-1-1
TEL 086-251-7775

☆九州工業大学工学部
1. 職名・人員：助教授又は講師1名
2. 所属講座：数理情報基礎講座（大学院博士大講座）図形情報分野
3. 担当科目：学部では，情報リテラシー，プログラミング等の講義と演習を担当
4. 着任時期：1998年10月1日までのできるだけ早い時期
5. 応募期限：1998年3月31日
6. 照会先：九州工業大学工学部　数理情報基礎講座 教授 金元敏明
〒804-8550　北九州市戸畑区仙水町1-1
TEL & FAX 093-884-3418
E-Mail: kanemoto@fluid.mech.kyutech.ac.jp

☆埼玉大学経済学部
1. 担当科目：「情報処理」（共通教育，専門，及び大学院）（経営学科　大講座「企業と経営管理」に所属）
2. 職名・人員：助教授1名
3. 採用予定日：平成10年10月1日以降なるべく早い時期
4. 応募期限：平成10年3月31日
5. 照会先：埼玉大学経済学部庶務係
〒338-8570　浦和市下大久保255
TEL　048-858-3281

☆一橋大学情報処理センター
1. 職名・人員：助手1名
2. 職務内容：（公募書類より抜粋）
・センターに設置されているコンピュータの管理，運営および整備
・ネットワークの構築管理，運営
・コンピュータ利用についての助言及び教育指導一般
・その他，情報処理に必要な業務
3. 採用予定日：平成10年6月1日
4. 応募期限：平成10年3月31日
5. 照会先：一橋大学イノベーション研究センター事務室
〒186-8602　東京都国立市中2-1
TEL 042-580-8411

☆ 筑波大学大学院経営・政策科学研究科（東京地区，夜間大学院）
1. 職名・人員：経営システム科学専攻 助教授又は講師 1名
2. 専門分野：数理科学（ファイナンス理論）
3. 担当科目：ファイナンス工学，数理科学基礎
4. 着任時期：決定後なるべく早い時期
5. 任期：原則としてなし
6. 応募期限：平成10年4月15日
7. 照会先：筑波大学大学院経営・政策科学研究科 経営システム科学専攻 鈴木久敏
〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1
TEL:03-3942-6883　FAX:03-3942-6829
e-mail: suzuki@gssm.otsuka.tsukuba.ac.jp

☆富山大学経済学部（再掲載）
1. 学科名：経済学科
2. 大講座名：政策科学
3. 担当科目：「統計学」または「計量経済学」
4. 職名・人員：助教授，講師，または助手　1名
5. 採用予定年月日：平成10年9月1日もしくは平成11年4月1日
6. 応募期限：1998年4月15日(水)
7. 照会先：富山大学経済学部
〒930　富山氏五福3190番地
Tel: 03-0764-45-6401　Fax:0764-45-6419

☆福島大学教育学部
1. 職名・人員：助教授又は講師1名
2. 所属講座：学校教育
3. 専攻分野：教育心理学
4. 担当授業科目：教育発達心理学，教育方法概論，認知思考心理学，学習心理学，心理学(共通教育科目)，大学院関連科目等
5. 応募期限：平成10年4月17日
6. 採用予定日：平成10年10月1日

7. 照会先：福島大学教育学部庶務係
〒960-1296　福島市松川町浅川字直道2番地
TEL　024-548-8103

☆弘前大学人文学部
1. 担当授業科目：情報処理論
2. 専攻分野：上記情報処理論を担当できる方であれば，専門を問わない。ただし，学部のネットワーク管理をすることができる方。
3. 所属講座：情報行動講座
4. 職名及び採用人員：教授又は助教授1名
5. 採用予定年月日：平成10年10月1日または平成11年4月1日
6. 応募期限：平成10年4月30日（必着）
7. 照会先：〒036-8224 青森県弘前市文京町1番地
弘前大学人文学部　教授　清水　明
電話　0172-39-3204（ダイヤルイン）
E-mail：shimizua@cc.hirosaki-u.ac.jp

公募内容の詳細については，下記を参照のこと
http://nacwww.nacsis.ac.jp/cis/0008-016.html

入会手続き

学会では新入会員を広く募っています。
詳しくは，
〒113 東京都文京区本駒込5-16-9
学会センター C-21
(財) 日本学会事務センター内
日本行動計量学会係
TEL: 03-5814-5810
FAX: 03-5814-5825
まで，お問い合わせ下さい。

行動計量学会会員数

（1997年12月現在）

正会員	918人
準会員	49人
名誉会員	5人
賛助会員	24社

学会誌論文投稿先

和文誌「行動計量学」
〒305 茨城県つくば市天王台1-1-1
筑波大学臨床医学系産婦人科
久保武士
TEL&FAX: 0298-53-3071
e-mail: sigemitu@md.tsukuba.ac.jp

欧文誌「Behaviormetrika」
〒153 東京都目黒区駒場3-8-1
東京大学教養学部心理学教室
繁桝算男
TEL:03-5454-6267，FAX:03-3485-0481
e-mail: kshige@bayes.c.u-tokyo.ac.jp

編集後記

今回，国際社会学機構（IIS）の会長に就任された佐々木正道先生に巻頭言をお願いしました。佐々木先生は世界を飛び歩き，国際的な学問情勢にも詳しい方です。

会報を会員相互のコミュニケーションの場としても，活用して下さい。会員の皆様からの御意見など，お待ちしております。

原稿の送り先は次の通りです。

会報原稿送付先
〒173　東京都板橋区加賀2-11-1
帝京大学医学部衛生学公衆衛生学教室
山岡 和枝
TEL: 03-3964-1211(内2178)
FAX: 03-3964-1058
e-mail: kazue@med.teikyo-u.ac.jp

（会報作成担当：山岡和枝・前田忠彦・山下智志）